

人間科学研究 引用書式細則

1. 句読法

和文原稿においては、句点はマル(。)を、読点はカンマ(,)を用いる。

2. 本文中の見出し

章・節の見出しは以下の番号構成とし、**ボールド体**にする。

大見出し 1. 2. 3. ...

中見出し 1.1 1.2 1.3 ...

小見出し 1.1.1 1.1.2 1.1.3 ...

【例】

1 学内組織・施設：さまざまな「成長の場所」

1.1 施設を使いたい

1.1.1 学生会館

1.1.2 図書館

1.1.3 博物館・歴史館

1.2 学びを深めたい

1.3 社会と関わりたい

1.4 世界を知りたい

1.4.1 留学センター

1.4.2 ICC（異文化交流センター）

2. レポート・論文の作成について

3. 情報の取り扱いに関する注意

3.1 知的財産権の侵害

3.1.1 不審なメールへの返信

3.1.2 怪しいサイトへのアクセスによるウイルス感染

3. 文献の引用

書式は、(a)「著者名・年号式」、または、(b)「引用順式」を選択できるものとする。文献のリストは、論文末尾に列挙する。原稿末尾に記載する文献リストの配列は、「著者名・年号式」においては著者姓のアルファベット順とし、「引用順式」においては引用番号順とする。

4-a. 「著者名・年号式」における本文での引用：

- ・本文中に著者名を記載するかたちで文献を引用する場合
例：「浅井（1994）によれば」、「濱口（1989）によれば」
- ・括弧内に文献情報を記す場合
例：「...とされる（Togawa, 1999）。」「...である（池原, 1990）」
- ・同一著者による同一年次の文献が複数ある場合は、小文字のアルファベット a, b, ... を年号の末尾に付すことによって区別する
例：「...である（山本, 1983a, b）。」
- ・同姓で同一年の、異なる著者による文献がある場合は、文献が欧文であればイニシャルを、和文であれば名を添える
- ・共著の場合は、文献が和文の場合には著者名の間を「・」で結ぶ。欧文の場合は「&」で結ぶ。引用のたびに、両著者を記載する。
例：「...である（相馬・佐古, 1976）。」「...となる（Saegusa & Gay, 1988）」
- ・著者が3人以上の場合は、初出の際に全著者の姓を記載する。2度目以降は第1著者の姓を記し、日本語文献であればその他の著者を「他」と、欧文文献であれば「et. al.」と略す。
例：初出「...とされた（浅井・上田・大島・嵯峨座・相馬・濱口・春木・野嶋, 1998）」「...である（Hama, Arii, & Ito, 2001）」
例：2度目以降「...とされた（浅井他, 1998）」「...である（Hama et al., 2001）」
- ・文献引用の順序：本文中の同一箇所には複数の文献を引用するときには、著者の姓のアルファベット順にセミコロンで区切って記す。また、同一著者の複数の文献については、出版年順に並べてそれらをカンマで区切って記す。
例：「...である（浅井, 1994; 山本, 1983a, b）」
- ・特定ページの引用：文献中の特定ページを引用する際は、出版年の後にページ数を書き添える。1ページのみときは「p.」を、複数ページにわたるときは「pp.」を用いる。
例：「(比企, 1994, p.1)」

4-b. 「引用順式」における本文での引用：

引用箇所の右肩に、引用番号を引用順に振る。

例：「...とされる⁽¹⁾。」「...である⁽¹⁻⁵⁾。」「...となる^(1,3,7)。」

5. 文献リストの形式

5-a. 「著者名・年号式」における文献リストの形式

引用文献は、著者名のアルファベット順に、また、同一著者の文献については出版年次の古いものから順に、論文の最後に一括して記載する。見出しは、日本語原稿では「引用文献」、欧文原稿では「References」とする。

- (a). 定期刊行物の場合の記載順は、著者名、刊行年次、標題、雑誌名、巻(号)、ページ、とする。
- (b). 単行本の場合は、著者名、刊行年次、標題、(編者名、著書名)、出版者(、ページ)とする。なお、海外の出版者の場合は、出版者名を、その所在地に続いてコロンの区切り記載 (Oxford: Oxford University Press 等) する。
- (c). インターネット上の資料を引用する場合は、著者名、年号、資料標題、サイト名、<URL>、資料にアクセスした日、について記載する。

例：

文部科学省. (2011). 科学技術白書(平成23年版) 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa201101/1302926.htm> (2012年4月1日)

Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology in Japan (2006). White Paper on Science and Technology 2006. Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology in Japan <<http://www.mext.go.jp/english/whitepaper/1302556.htm>> (April 12, 2012)

引用文献記載例(「著者名・年号式」)：

浅井邦二 (1994). こころの測定法：心理学における測定の方法と課題 実務教育出版.

浅井邦二・上田雅夫・大島康行・嵯峨座晴夫・相馬一郎・濱口晴彦・春木豊・野嶋栄一郎 (1998). 人間科学部創設時をふりかえる：創設の経緯と理念 早稲田大学人間科学研究, 11(1), 121-140.

Hama, K., Arii, T. & Ito, Y. (2001). High-voltage electron microscopy in neurocytology. *Journal of Electron Microscopy*. 49(1), 1-4.

濱口晴彦 (1989). 社会学者の肖像：甦るエミール・デュルケム 勁草書房.

比企静雄 (1994). 声の役割 日本音声言語医学会(編) 声の検査法：基礎編 医歯薬出版 pp.1-18.

池原義郎 (1990). 建築とディテール 彰国社.

Saegusa, Y., & Gay, C. W. (1988). Japanese Students' English Proficiency, *Waseda Journal of Human*

Sciences, 1, 3-13.

相馬一郎・佐古順彦 (1976). 環境心理学 福村出版.

Togawa T. (1999). Considering long-term survival of human race. *Technology in Society*, 21(3), 233-245.

山本多喜司 (1983a). 明るい子ども：その性格心理学的考察 児童心理, 37(3), 421-428.

山本多喜司 (1983b). 自立への悩みと反抗 児童心理, 37(9), 1387-1394.

5-b. 「引用順式」における文献リストの形式

引用文献は、引用番号順に論文の最後の一括して記載する。見出しは、日本語原稿では「引用文献」、欧文原稿では「References」とする。書誌情報の記載項目、記載順は、「著者名・年号式」に準ずる。

引用文献記載例（「引用順式」）：

- (1) 浅井邦二・上田雅夫・大島康行・嵯峨座晴夫・相馬一郎・濱口晴彦・春木豊・野嶋栄一郎 (1998). 人間科学部創設時をふりかえる：創設の経緯と理念 早稲田大学人間科学研究, 11(1), 121-140.
- (2) 相馬一郎・佐古順彦 (1976). 環境心理学 福村出版.
- (3) Hama, K., Ariei, T. & Ito, Y. (2001). High-voltage electron microscopy in neurocytology. *Journal of Electron Microscopy*. 49(1), 1-4.
- (4) 濱口晴彦 (1989). 社会学者の肖像：甦るエミール・デュルケム 勁草書房.
- (5) Saegusa, Y., & Gay, C. W. (1988). Japanese Students' English Proficiency, *Waseda Journal of Human Sciences*, 1, 3-13.
- (6) 山本多喜司 (1983a). 明るい子ども：その性格心理学的考察 児童心理, 37(3), 421-428.
- (7) 山本多喜司 (1983b). 自立への悩みと反抗 児童心理, 37(9), 1387-1394.
- (8) 池原義郎 (1990). 建築とディテール 彰国社.
- (9) Togawa T. (1999). Considering long-term survival of human race. *Technology in Society*, 21(3), 233-245.